

ブローグ

「お母さんが死んだら、私たちはどうなるの」

私が仕事先で倒れ救急車で運ばれたとき、駆けつけた長女が言った言葉です。まだ長女は中学生で、次女が小学生のときでした。

2001年、私は離婚を期に、長年暮らした関東から私の故郷である沖縄に幼い二人の娘たちとともに帰ってきました。当時、私は7年にわたって心の病を患い、精神安定剤を服用しながらの生活でした。

母子家庭なので、働き手は私しかいません。私が働くことで家族を守る以外ないと思い込んでいました。

そのため、仕事を2つ掛け持ちし、深夜まで家を空けることが多くなりました。

その上病に倒れ、入院生活を送ることになり、娘たちに不安な思いをさせてしまいました。「そんなことではダメだ！ 私が変わる！ 私は変わる！ 健康になる！」病院のベッドの上に横たわる私に降りてきた言葉は「脱！ 病宣言」です。

病から卒業したい一心で自分自身と向き合っていると、突然私の守護神と名乗るおじさんの神さまが現れたのです。

それまで私は、神さまといえは神々しく、光り輝く存在だと思っていました。

しかし、私の目の前に現れたのは、ぷっくりお腹につるっばげのおじさん。

そのおじさんが私の守護神だと名乗ったのです。最初はそんな神さまの言うことなんか「何を言っているの」と思っていました。しかし、そのおじさんの神さまは、辛抱強く生き方の智慧を説いてくれたのです。

そして、私は神さまのメッセージを一つひとつ生活に取り入れていきました。すると数カ月でミラクルが起きたのです。7年間服用していた精神安定剤にさよならができました。病が消えたのです。

スピリチュアルな智慧を生かすことで、健康で心豊かに、幸せに生きる力が内側からあふれ出てくるのを体感しました。

守護神との出会いに導かれて、現在の仕事である『導く人』のお役目』としてスピリチュアルカウンセラーになりました。

病になったこと、子育てをさせていただいたこと、スピリチュアルカウンセラーの仕事就いたこともすべては必然だったのです。

あれから16年以上の歳月が流れ、今では、子どもたちも社会人となりました。

子育て中、私は親としてのお役目をこう思っていました。

生活費を稼ぐこと、子どもを養うこと、健康を意識した体に良い食事を作ること、生活習慣を整えること。そして子どもは勉強をして、有名な大学に進学する。卒業後は、安定した職業に就くことが一番良いと思っていました。しかし神さまとの出会い、スピリチュアルな智慧を学ぶうちに、人にはそれぞれの思いや、魂の学びがあることを知りました。人生で起きる出来事の中で苦しいことや悲しいことをどう乗り越えていくのかが大切なのだと教えていただきました。そして、乗り越えたあとは愛と感謝の思いでいっぱいになります。自分自身を認められるようになるのです。自分を認められると、今度は子どもの良い面に目を向けられるようになります。

親は親で自分の道を、子は子で自分の道を歩いていいと思えるようになりました。親と子がそれぞれ好きなことを見つけて生きていくこと。好きなことを仕事にしているのです。

お互いの選んだ仕事を認め合うこと、協力し合うことが大切だと知ったのです。

おじさんの神さまからの教えの中で、親子関係について私が意識していることは、親が子へ経験談を話すとき、成功談として話すよりも失敗談として話すことです。失敗談だと意識すると、お子さんに対して「ああしなさい。こうしなきゃダメじゃない」と指示しなくなります。「お母さんはこうしてしまっただけで、あなたは、どう考えているの？ どうしたいの？」と子どもの話を聞き、子どもの「話す力」「生きる力」を大切にしていけるようになります。

親も完璧ではありません。ですが、毎日顔を合わせる家族です。身近すぎて意見を聞きたくないときや、虫の居所が悪く大ゲンカもするときもあるでしょう。私も何度か子どもの心を傷つける発言をしてしまいました。

二人の子どもたちが自立するときに、「お母さんってこういうところあるよね。あのときの言葉はめちゃくちゃ傷ついた」「心が折れた」と言われました。

子どもの心をこんなにも、傷つけていたなんて！

私もその事実にはショックを受けてしばらく動けず、その夜は、眠れませんでした。

子どもが本気でぶつかってきたとき、私もムキになってしまい、大ゲンカになりました。私も完璧な母親ではなく、至らないところがあると自覚したのです。

親として一生懸命子育てをしているつもりでしたが、実は私自身が子どもに育てられていると心から実感したのです。

お母さん、よく思い出してください。あなたも恋愛で悩み、人間関係で悩み、仕事や子育てで悩み、怒ったり、泣いたり、失敗してきたはずです。でもその経験をお子さんに伝えるとき、親である私たちは少しでも自分を良く見せたくて、カッコよく話してしまうのです。その裏にあるのは「お母さんこんなにあなたたちのために頑張っているのよ」という思いです。

でも、本当の姿は……。親である私たちも、悩んでたくさん失敗して、地味で、カッコ悪くて、少しでも良くなりたくて一生懸命生きている。その姿を見せたらいいのです。

子育て中でも、仕事するときも、肩の力を抜いて、完璧じゃない自然体でいられる親子でいいと認めることで、子どもにも自分にも優しくなれると思います。

テレビで見たり本で読んだりするような素晴らしい親子のかたちを意識するよりも、どの人もどの親子も、問題や課題を抱えながらぶつかり合うこともあれば助け合うときもあることを理解する。その小さな積み重ねが道となり、幸せな親子のかたち形作っているのだと思います。

我が家でも子どもの自立のとき、話し合う時間を持ちました。

私が成人したとき、母が私に伝えてくれたことを私も娘に同じように伝えようと思いました。

しかし、神さまからストップがかかりました！

「時代が違う。今は個々の時代。良い会社に就職するだけが良い人生ではない」。

神さまにはわかっていたのです。

次女に、「大学を卒業したら、家を出て友人とシェアハウスで暮らし、本当の自分が何をしたいのかを見つめたい」と言われました。

多くの親が思う、大学卒業↓就職という人生の選択ではなかったのです。

神さまからストップがかからなかったら、私は親として子どもの生き方を受け入れられたでしょうか？

実際、子どもたちの自立のとき、何度か言い争いになりました。

正直「私と同じ苦労はさせたくない」「子どもたちには、早く就職して安定した生活を送ってほしい」と思っていました。

しかし、彼女たちは自分の好きな道を歩くことを決意しました。

私自身も神さまとの出会いにより、自分の好きなことを仕事としています。子どもたちも成人

し、親から離れ自分の世界を広げて、社会からいろいろなことをいっぱい吸収しているのです。

「今は個々の時代」という神さまの言葉を思い出します。子どもには子どもの人生の選択があります。

親の務めは、子どもの話を聞いて子どもが自ら出した答えを尊重すること。たとえば価値観が違っていても話を聞いて、子どもの成長を喜び、認めていくことなのです。

子どもから自分自身を見つめる時間を持ちたいと言われた、他人の考えるのではなく、自分軸を持つて生きる娘へと成長していると感じました。母親の仕事にしての意見も鋭いです。私の仕事はスピリチュアルな世界に関わっています。スピリチュアルな世界のメッセージを受け取り生きていくことは、現実的でない場合もあります。

娘たちから、

「お母さんスピリチュアルな世界もいいけど、ちゃんと理論を話さないと人には伝わらないよ」「スピリチュアルが苦手の人もいるのだから」

親子だからこそ、率直な意見も伝えてくれます。

私はスピリチュアルと現実のバランスがよい生活を提案するブログを書いています。

就職活動を行わなかった娘たちから「自分の好きなことで生きていく、お母さん協力して」と相談がありました。今、お互いの好きなことをかたちにしています。

学生生活を卒業すると、どの親子にも、親子ともに自立するときは必ずやってきます。

お母さんだからと完璧を目指さなくてもいいのです。子どもも完璧を目指さなくていいのです。どちらも完璧でないから助け合い、相談し合うことができる。お互いに夢を叶える力があると信じて、応援する関係を築いていけるのです。

親子で夢の実現！

好きなことを仕事として楽しく生きていくためには、本書を読むことであなたとお子さんの絆が深まれば幸いです。